

会 議 録

会議の名称	平成28年度第2回戸田市児童福祉審議会
開催日時	平成29年1月30日(月) 午後2時00分～午後2時50分
開催場所	市役所5階 大会議室A
会長等氏名	会長 中村 信成
出席者氏名 (委員)	永塚 博之 武内 利行 芝崎 春樹 日山 秀利 中野 康子 田島 貴子 山下 理恵子 山口 百百 根本 浩伸
欠席者氏名 (委員)	米倉 裕子 平野 修司
事務局	三木部長 黒澤次長 櫻井課長 角田課長 矢ヶ崎課長 鈴木主幹 福田主幹 大原副主幹 富田副主幹 金子主事 井上主事 野本主事
議 題	(1) 戸田市子ども・子育て支援事業計画の一部変更について (2) 子ども・子育て支援事業に関する市民インタビューについて (3) その他
会議結果	1 議題1について説明、意見聴取した。 2 議題2について説明、意見聴取した。
会議経過	別添のとおり
会議資料	1 戸田市子ども・子育て支援事業計画の一部変更について 2 子ども・子育て支援事業に関する市民インタビューについて その他：待機児童緊急対策アクションプラン、保育人材支援パンフレット（就職支援給付金、宿舍借上支援）
傍聴人	0人
議事録確定	平成29年1月30日 会長 中村 信成

発言者	発言要旨
こども青少年部長	<p>【 開会 】</p> <p>委員の皆様、本日は、お忙しい中をご出席くださいまして誠にありがとうございます。また、日頃より本市の子ども子育て支援事業にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。</p> <p>昨日市議選があり、新しい26名の議員が決まったところでございます。また昨年度から待機児童対策として各種取り組んでおりますが、保育士確保策として給付金等の事業をメディアで取り上げていただくなど注目を集めているところでございますが、東京都の小池都知事も待機児童対策として予算を投入する発言があり、近隣市としても財政が厳しい状況の中、力を入れて対応していきたいと考えております。</p> <p>本日は、次第にありますとおり、議題が2点ございまして、1点目は、前回事業計画の進捗状況の報告としてご審議いただきました「戸田市子ども・子育て支援事業計画」について、保育利用希望や、また、待機児童緊急対策アクションプランにおける整備計画などを踏まえて、計画値等について、現状を反映したものとなるよう、検討し、変更したくご審議いただくところでございます。</p> <p>また、2点目の議題として、昨年11月に開催した子ども・子育てフェスタにて来場された方へインタビューをしましたので、その報告をさせていただきます、ご審議をお願いいたします。</p> <p>委員の皆様方には、日頃より子ども・子育て支援関係にてご尽力いただいておりますので、いろいろな立場からのご意見をいただきまして、慎重審議をよろしくをお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。</p>
会長	<p>【 会長あいさつ 】</p> <p>会長の中村です。よろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、本日もお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日も、委員の皆さんそれぞれよりご意見等をいただき、進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>【 議事 】</p> <p>議題（1）戸田市子ども・子育て支援事業計画の一部変更について及び待機児童対策アクションプランの概要並びに保育士確保給付金の内容につき説明（会議資料1及び待機児童緊急対策アクションプラン、保育人材支援パンフレット（就職支援給付金、宿舍借上支援）をもとに説明）</p>

委員	<p>【 質疑応答及び意見聴取 】</p> <p>アクションプランにて、平成29年度240名、平成30年度550名の受け入れ拡大のプランであるが、その数の策定根拠は。</p>
事務局	<p>保育所整備には、通常少なくとも1年から1年半の時間を必要とする。市有地を活用するなど工夫はするが、短期間で整備が整うものではない。平成28年10月にアクションプランを策定した際に平成29年度の数については、実現可能な数を計上した。</p> <p>アクションプランの資料1の3保育所等の申込者数の推移及び予測並びに5東京都特別区の保育所等申込率の推移などから申し込み児童数の予測を行った。就学前児童数に対する保育所申込者児童数は、平成28年度は約34%だが平成31年度には43%になると推定される。これは、東京都特別区での平成28年4月平均値が42.5%であることから、東京に隣接する戸田市においても今後申込率の上昇は高まることが見込まれるためである。平成31年度の申込率43%を人数に換算すると4,217人であり、平成28年4月の受け入れ枠3,020人を差し引くと1,197人となることから、3年間で必要な受入数を約1,200人とした。戸田市は、県内での人口増加率1位であり、今後も人口増加が見込まれるだけでなく、共働き世帯の増加も予測されることから、需要が読みにくい点もあるが、東京都と同じような伸びをしていくものと考えている。</p>
事務局	<p>議題（2）子ども・子育て支援事業に関する市民インタビューについて （会議資料2をもとに説明）</p>
委員	<p>【 質疑応答及び意見聴取 】</p> <p>項目の1. 子育てを取り巻く環境 Q1-3にて相談の相手先として市役所と回答された方がゼロというのが残念ですね。市の窓口としてこども家庭相談センターなどがあると思いますが。また、回答項目の中に民生委員や社会福祉協議会、ボランティア団体等の回答項目があっても良かったのでは。また、Q1-4にて子育てに関する情報の入手先で広報誌が比較的多いというのが意外であった。ホームページという回答が多いのではないかと思ったが、それほど高くない。ホームページの情報発信の工夫、活用も必要かと思う。</p>
事務局	<p>子育て支援事業のイベント参加者募集など、広報を見て参加される方が多い。ホームページですと、情報が多いという点もあり、定期的に発行される広報が馴染みやすいのかもしれない。内容によって使い分けていると思う。ホームページは、数年前にリニューアルした結果、</p>

	<p>以前のホームページと配置が異なることから戸惑う所も多いかと思う。</p>
委員	<p>広報ですと、町会に加入していない方へは情報が届きにくいことから、ホームページ等の情報発信も工夫してみては。</p>
事務局	<p>戸田市の情報発信のアプリケーションとしての「toco ぷり」やツイッターなどの新たな情報発信ツールを活用しながらより充実した情報の提供に努めていきたい。</p>
委員	<p>アクションプランにある保育事業者への市単独補助金のうち、運営費補助として公定価格（保育単価）の地域区分の近隣市との差額を補うための補助金の使途制限はあるのか。また補助制度はいつまで助成する予定であるのか。</p>
事務局	<p>ご指摘の補助金は、運営費の単価基準となる地域区分が、戸田市 6/100、近隣市 15/100 という実情の差を補うための運営費補助であり、特に使途を限ってはいない。運営費の充実に補助するものであり、運営費の大部分が職員の処遇（人件費）費用と思われることから、通常運営費の使途の範囲内にて活用していただきたい。また、補助期間については、その地域区分の不均衡状態の改善を埼玉県には平成28年9月に、国（内閣府）には平成28年11月に要望書を市長自ら足を運び提出している。この不均衡が是正されれば、補助制度の見直しがされることとなる。ただ、予算も有限であるため、永遠に補助制度が続くとはいえないが、アクションプランの推進を図っていく上で、短期間で打ち切りとなるようなことはないと考えている。</p>
委員	<p>常勤保育士に最大30万円を給付する予定の所得については、一時所得になるのか。</p>
事務局	<p>就職支援給付金は、法人ではなく保育士本人への給付となることから、税法上20万円を超えると申告の必要が生じるため、その点については、給付時に対象者へ丁寧な説明を行っていきたい。また、補足となるが、宿舍借り上げの助成については、法人への助成であり、交付要綱などが定まった段階でご案内して行く予定である。</p>
事務局	<p>議題（3）その他 本日審議いただきました、議題1及び2につき、資料とともに会議録を作成し、後日、市ホームページにて公開させていただきます。 また、さきほど審議いただきました、戸田市子ども・子育て支援事</p>

会長職務代理	<p>業計画の一部変更については、県へ協議ということで上げさせていただき、平成29年3月の改定を予定しており、改定後、委員へお知らせしたい。</p> <p>本日は、新年が始まりお忙しい中お集まりいただき、また、長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございます。今後ご協力いただく点もあると思いますがよろしく願いいたします。以上をもちまして閉会の挨拶とさせていただきます。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、平成28年度第2回戸田市児童福祉審議会を終了いたします。</p> <p>本日は、長時間にわたり、ありがとうございます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>